

# 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 羽島北高等学校学校運営協議会 (第2回)
  - 2 会議の開催 新型コロナウイルス感染症対策のため、書面開催
  - 3 送付資料 羽島北高等学校スクール・ポリシー (原案)  
生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果 (生徒)  
生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果 (保護者・学校関係者) 等
  - 4 参加者 会長 三輪 浩子 社会福祉法人羽島郡福寿会事務局長  
(羽島北高同窓会員)  
副会長 永田 友美 羽島北高PTA会長  
委員 青木 秀益 柳津青少年育成市民会議推進委員  
熊谷 康 カラフルタウン岐阜プレジデント  
河野 公洋 岐阜聖徳学園大学教授  
近藤 芳子 柳津佐波女性の会  
廣瀬進一郎 地域自治会顧問  
(敬称略・委員は五十音順)
- |     |       |        |
|-----|-------|--------|
| 学校側 | 林 靖   | 校長     |
|     | 西村 美穂 | 教頭     |
|     | 石原 康秀 | 教頭     |
|     | 瀬瀬 和也 | 事務長    |
|     | 加藤 秀徳 | 教務主任   |
|     | 福島佳代子 | 進路指導部長 |
|     | 前田 輝美 | 生徒指導部長 |

## 5 主な意見

### <スクール・ポリシーについて>

意見1：原案は、どの学校にも通用する内容となっている。グラデュエーション・ポリシーとしては校訓「誠実・叡智・進取」を使った方が羽島北高のオリジナリティが出る。また、カリキュラム・ポリシーやアドミッション・ポリシーも、羽島北高が単位制を導入しており、特色があることが一目でわかるよう示唆しないともったいない。

意見2：原案では、グラデュエーション・ポリシーとして、他者と協働してこれからの社会

の課題解決に取り組むということが謳われているが、そのための入口としては、第一に何事にも興味・関心を持つことが大切である。特に、地域社会の一員としての積極的行動に対してはより必要となる。

「課題解決力」を育成する上でのポイントは、その課題・現象の背景を知ることにある。カリキュラム・ポリシーに「その課題の背景を知る」という内容を加えるとよいのではないか。

- 意見3：グラデュエーション・ポリシーの原案が示す生徒像は、地域が求める姿でもある。
- 意見4：生徒達には、自分の意見をしっかりと持ち、協力し合う広い心を持ってほしい。そのために、学校では一人ひとりの個性を、これからの未来に向けてうまく伸ばしてほしい。自ら進んで学習や地域の活動にまじめに取り組み、何事も失敗を恐れずに挑戦する人に育つことを期待している。
- 意見5：これからのコロナ禍を生きる生徒にとって、生活習慣や主体性はますます重要になる。原案のようにあえてアドミッション・ポリシーに掲げることで生徒も意識しやすくなるのではないか。
- 意見6：コロナ禍だからこそ、ICT活用を積極的に行い、対面・実体験型学習に負けない学びの形を構築してほしい。

#### <本校の教育活動全般について> (生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果などから)

- 意見1：「総合探究」は全国的に生徒には不評だが、羽島北高では生徒の6割近くが肯定的評価をしている。教員の努力に敬意を表す。
- 意見2：日本中で問題になっていることであるが、生徒会活動が、生徒会というサークル活動のようになってしまっているということがある。アンケート結果からすると、羽島北高でも、生徒会役員でない生徒には活動の実態が見えにくくなっていることがうかがわれる。生徒一人ひとりに、自分の学校、生徒会の一員としての自分という意識が根付くとよい。
- 意見3：ボランティアに関しては、岐阜聖徳学園大学との高大連携を生かし、大学のボランティア論の教員に講演会を依頼するなどの取組もよいのではないか。
- 意見4：コロナ禍の為、地域探究活動、ボランティア活動、生徒会活動に制限がかかり、思い切った活動ができなかったことが、アンケート結果に表れている。特に現2年次生はこの状況が入学後から継続しており、活動的な高校生活を送ることが一度もできないまま長い時間がたっており、不満・不安が多くあるのではないか。以前とは違う環境下で、できることを見出していくことが必要である。
- 意見5：コロナ禍で難しいとは思いますが、グラデュエーション・ポリシーにもあるような生徒が増えていくには、ボランティア活動の大切さを伝える機会を増やしてほしい。
- 意見6：ボランティア活動については、状況が許すようになれば、生徒が参加した後も、その結果が見えるような活動があってもいいのではないか（例えば学校周辺の除草作業など）。また、地域貢献については、地域企業との企画とタイアップするなどの工夫もできる。特に防災関係は重要なテーマである。
- 意見7：否定的評価が高い項目に対して、今後学校でどのような対策が行われていくのかが気になる。

## 6 会議のまとめ

- 第2回学校運営協議会においては、本校の文化祭を参観し、対面で意見を交わす計画であったが、新型コロナウイルスの感染状況や文化祭が実施時期未定で延期になったことを踏まえ、書面開催とした。
- 今回は、「スクール・ポリシー」の策定や「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の結果に対する指導と助言を得た。
- 「スクール・ポリシー」については、本校のオリジナリティをよく理解した上で、より効果的にアピールするよう助言された。また指摘から、教育活動のポイントとなるところについて再確認することができた。
- 「アンケート結果」については、まず、「総合探究」は全国的に見れば本校はよく取り組んでいるといえると評価された。「総合探究」は本校が苦心して開拓している分野であり、大いに力付けられた。
- ボランティア活動について、多くの助言から、本校に対する地域の期待を感じた。
- 委員からは、本校教職員への応援の言葉をいただき、感謝している。